

令和5年5月12日

令和5年度西部支部総会 支部長就任挨拶

安東 潤

このたび、日本船舶海洋工学会西部支部長を務めることになりました九州大学大学院工学研究院海洋システム工学部門の安東潤と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

前支部長の橋本先生は、支部長を2期4年務められ、さらに引き続き学会長の重責を担われます。先生のこれまでのご尽力そしてこれからのさらなるご貢献に対しまして、心より感謝の意と敬意を表します。

ご承知のように、西部支部の前身は昭和24年（1949年）に設立された西部造船会です。西部造船会初代会長の渡辺恵弘先生の就任のご挨拶の要点をご紹介します。渡辺先生は、造船業が将来の日本において果たすべき使命として、海運の発展と維持および輸出工業の一環を担うことを挙げられ、そのためには、技術の模倣ではなく基礎から技術を叩き上げること、また経験を重んじるとともに個人の能力、オリジナリティを尊重すべきであると強調しておられます。これらのことは西部造船会設立から約75年後の現在においても当てはまり、西部支部の基本的な理念として語り継いでいきたいと思っております。

さて、今日の船舶海洋工学の課題は多岐に渡ります。代表的なものとしては脱炭素やデジタル化といったものが挙げられると思っておりますが、これら以外にも数多くの課題があり、既に会員の方々はそれぞれの分野でそれぞれの課題に取り組んでおられます。さらに、分野を問わず共通の課題として人材の育成および確保があると思っております。

これも古いお話になりますが、西部造船会のさらに前身である九州造船会が大正13年（1924年）に設立された際に初代会長を務められました野中季雄先生は、その会長就任のご挨拶の中で、この造船界の不況を乗り切るためには、造船技術を飛躍的に研究発展せしめる必要があります、また技術の本質は要するに人であるから、人材の養成教育に大いに力を注ぐ必要がある、と強調されています。このお言葉、特に「養成教育」の部分は現在の西部支部に受け継がれており、西部支部の目的を一部抜粋しますと、「・・・船舶及び海洋工学に関する学術、技術の進歩発展と教育への貢献を計ることを目的とする」の部分に「教育」の一語が含まれています。



人材の育成および確保、特に人材確保について話を戻します。これは海事産業全体の人材が十分に確保されているかどうかということとの対応は必ずしも明確ではありませんが、会員数の減少傾向は顕著です。学会運営に関与する者としては、この減少傾向に歯止めをかけることが急務であることを強く認識するとともに、一筋縄ではいかない難問であると感じました。このことにつきましては、皆様方のお知恵を拝借して取り組んで参りたいと考えております。

漠然とした表現ではありますが、企業や大学等、さまざまな組織に属する会員の皆様がそれぞれの立場で学会を活用（講演会や行事への参加、論文集や学会誌の閲覧等々）し、役に立った、楽しかった等ご満足頂けることが、私が考える学会の理想像です。多くの会員の方々が学会活動に満足されること、多くの会員の方々が自身が成長し活躍されることが学会の発展につながるように思います。

最後になりますが、これから 2 年間、西部支部および学会全体の運営に微力を尽くす所存ですので、西部支部の会員の皆様のご支援ご協力を賜りたく存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。